



休刊に際し、これまで新聞の制作や配布に関わってきたメンバーの「声」をお届けしたいと思いました。仮設団地の皆様から頂いた元気、大好きな石巻への想い、活動の中でぶつかった壁、嬉しかったこと、悲しかったこと、そして感謝の気持ち達から「手紙」を受け取ってください。（あき）



きたむー

ご無沙汰しておりまして。創刊号から24号まで編集長を勤めさせて頂いた、きたむーです。昨年4月に石巻を離れた後、設計の仕事に戻り東京であくせく働いております。それからずっと仕事を埋もれて石巻の事を忘れていたわけではなく、仕事の合間を縫って石巻へ何度も足を運んでいきます。足を運びたくな

るのは、石巻には見たい海や山や川の風景があり、とても美味しい海産物があふれているから。石巻は私にとってもお気に入りの街で、実家の様な気分転換しに来たくなる街です。一年間はあつという間でした。仕事の傍ら石巻と一緒に活動した仲間と共に石巻の人たちに対して東京で何が出来るかを考え、自分たちで出来る事を出来るだけやって過ごしました。例えば石巻の物品を販売したり、東京や名古屋で友人や知人を集めて石巻産のカキやホタテを食べる会を企画したり。私が好きな石巻の魅力に少しでも伝えられるように活動させて頂きました。東京でも声をかければ沢山集まって貰えるので、今でも遠く離れていても応援している人は沢山います。あの日から3度目の春が来ましたが、2年前の春よりも去年の春よりも、今年の春の方が春めいてる様に感じます。だから

**特別号**

ピースボートセンター  
いしのまき  
石巻市立町1-5-21  
ことぶき町商店街内  
(サルコヤ向かい)  
0225-25-5602  
kasetzukizuna  
@pbv.or.jp

北村孝太郎(きたむー)  
2011年4月より石巻でのボランティアを開始、約半年に渡り物資倉庫の管理を担当。同年9月、PBVの仮設支援が始まると同時に、仮設きずな新聞の編集長に就任。昨年3月PBVを卒業。

ら今年の日和山の桜を見に行くのがとても楽しみですが、ゆつくりながらも全ては動いております。皆さんが震災前の様な生活を取り戻すことは時間がかかるとは思いますが、出来るように私も頑張ります。出来ればお手伝いが出来ればと思います。今後私も石巻と関わっていきます。周りと距離を感じる事があつたとしても、私は常に東京から皆さんの事を想っています。そのうちまた皆さんに近況をご報告させて頂きます。それまで頂きますので、それまで体を大切にお過ごし下さい。そして、これからますます、よろしくお願いいたします。（きたむー）



かわ

「こんにちは！ボランティアのピースボートです！」  
初めて新聞配布をした時のことを、今でもよく覚えています。見ず知らずの人が突然訪問しても大丈夫なのだろうか？石巻にゆかりのない私が、このドアをノックしても良いのだろうか？それでも、石巻に来たのだから、この新聞を届けに行こう！押し寄せる不安と闘う私を、石巻の方々は優しく、明るく、温かく迎えてくださいました。

雨の日は新聞が濡れないように工夫をし、雪の日は滑らないように足元に気を配り、風の日は新聞が飛ばされ、犬に追いかけられたこともありました。今となつては全て良い思い出です。石巻を支援するために来たのに、逆に元気をもらつたことも多かつたです。悲しいお話を聞いた時は一緒に泣いたこともありました。石巻の方の想いを、色々な方に

沢山聞かせて頂きました。そして、私自身一年余り活動させて頂いた第2のふるさと石巻に、とても愛着を持つことが出来ました。私は一旦地元に戻りますが、これから、震災が繋いでくれたこの縁を大切にしていきたいと思っております。（かわ）

河村好美(かわ)  
2011年夏より石巻と名古屋を往復しながらボランティア活動に従事。昨年4月より石巻に拠点を置き、仮設支援の中心メンバー一人として活動。



レノン

「仮設きずな新聞」の題字デザインに関わらせて頂いたレノンです。石巻には何度も足を運んでいますが、何か自分から出来る事は無いかという想いで訪れても、実際には石巻の方々に沢山のものを与えてもらうばかりです。試行錯誤しながら新聞という媒介を使って「伝える」事に一

「こんな綺麗な物語じゃないんだよ。地獄のよ」（裏面へ続く）  
ヨッシー



矢野瑛子(レノン)  
第14号より題字や広告のデザインを担当。温かみのあるオシャレなデザインが毎回大好評。yokrop / yankow / wokr / okrop / yankow

所懸命取り組んでいる間の想いと、この新聞を運ぶボランティアさん、そして毎回楽しみに読んで頂いている読者の皆様、顔を浮かべながら、少しでも、題字を通じて皆と一緒に何かを共有したいという思いで作成して来ました。この題字作成によつて、今まで与えてもらった沢山の事を少しでもお返しできたかと言え、そんな自信は全くありません。ただ、ほんのわずかで、笑顔や季節感を皆様と共有出来たならば、これほど嬉しい事はありません。長い間ありがとうございました。（レノン）

うな日々だったんだから。連載した「再開物語」で取り上げた店の主人が、私の原稿を読んで漏らした言葉です。

私が記者ボランティアとして石巻にやってきたのは、震災から一年半が経った去年の初秋。震災の空気が皆無の東京から来た自分に、何がわかるのか。何を生み出せるのか。そして、何を伝えるのか。冒頭の言葉は、そんな自分の懸念を現実の物として突きつけました。

この店主は何とか店を再開させましたが、その一方で再開を果たせなかった人も多くいたはずで。また、それは店の経営に限らず、仮設に住む皆さんの生活も同じこと。元に戻せたものがある一方で、諦めざるを得なかったもの、永遠に失われたものもあつたはずで。そうした現状をどうまで理解して記事を書いたのか。この新聞が、よそのの書いた記事が、被災しなかった者が連ねた言葉が、皆さんの心に何かを残せたのか。再起の後押しとなる記事を書こうと石巻にやってきたのか、それを果たせたのかは分かりません。

休刊にあたり、お伝え

したい事があります。新聞が製作され皆さんに届くまでには、多数のボランティアが携わりました。高校生から高齢者まで、中には大学を休学したり職を辞した者もいました。全国から集まった様々な立場の全員が「皆さんの力になりたい」という想いを胸に活動をしてきました。

それは皆さんの受け取った被害の前では、余りにも微力で儂いものだったのかもかもしれません。けれども皆さんを支えようとした人達が、確かにいまも力をなりたいと動いた人達が、確かにいまもた。新聞を通じて、皆さんへ沢山の想いを届けようとしていました。この事を、どうか皆さんの記憶の片隅に置いて頂けたら幸せに思います。短い間でしたが、拙い文章に付き合っていて頂き、ありがとうございました。

(ヨッシー)

北澤義之(ヨッシー)  
会社のリフレッシュ休暇を利用し、昨年10月から約1カ月間石巻に滞在、その後複数回に渡り来石し、記者活動を行う。主に「店舗再開物語」や「ガチ市民」などのインタビュー記事を担当。



しんご

「うん、そうだと俺の目から見ると、俺たはまだ今じゃ、他の十万人の男の子と、別に変われない男の子なのさ。だから、俺はあんたが居なくたっていいんだ。あんたもやっぱいいんだ。あなただっていいんだ。」

俺は、十万ものキツネとおんなじなんだ。だけれど、あんたが俺を飼いた。新開を聞いて、皆さんへ沢山の想いを届けようとしていました。この事を、どうか皆さんの記憶の片隅に置いて頂けたら幸せに思います。短い間でしたが、拙い文章に付き合っていて頂き、ありがとうございました。

小林深吾(しんご)  
国際交流NGOピエヌポートの職員。震災直後の3月17日、先遣隊として石巻入りし、他団体との炊き出しの調整やボランティアの受け入れ体制作りを担当。現PBV石巻責任者。

か分からないけれども、少しでも力になりたいと「ボランティア」と呼ばれる人達が、沢山関わりました。「被災者」のある人は、お店の店主さんであったり、漁師さんであったり、学校に通う高校生でありました。失ったものも違い、悲しみも深さも違うことでしょ。それを同じように感じる事は出来ないけれど、理解したいと思いつづけた「ボランティア」も、会社員であったり、子どもを育てる母であったり、それぞれの個人でした。



あき

2011年4月23日、私は初めて石巻の地にやってきました。桜満開の日和山から眺めたあの光景を、私は生涯忘れられないでしょう。テレビに映し出される悲惨な映像に居ても立ってもいられずボランティアとして被災地に来たは良いものの、想像を超える被害の大きさと、一人ではどうにもならない複雑な課題を前に、時に悩み、嘆き、苦しみに涙する、そんな日々だったように思います。

「仮設きずな新聞」は、そんな出逢い方のきっかけをくれました。そして、これをくから、個人と個人を繋ぐきっかけを創り続けたいと思います。

仮設団地で新たなコミュニティ作りには奔走する人、地域活性のためのイベントを仕掛ける人。語られる言葉は様々でも、故郷・石巻への想いが言葉の端々から感じられます。そんな前を向いて語る人に会うたび、私は石巻という街、そしてこの街に暮らす人々の強さを見た気がします。

岩元暁子(あき)  
泥かきや避難所支援、工場支援を担当したのち、2012年1月から仮設きずな新聞の記者になる。「わっばかクッキング」や「ガチ市民」などのシリーズを考案。現編集長。

その日々を、石巻の人々と一緒に歩みたいと思っています。石巻の人々にもっと寄り添えるような、石巻をもっと面白くできるような、石巻の明るい未来を描けるような、そんな新聞作りが出来たら最高です。私はきつと一生石巻に関わり続けていくのでしよう。そんな魅力が、石巻にはあるんですよ。

(あき)